

平成 22 年 10 月 16 日

中斎塾 秋季合同フォーラム

於：足利まちなか遊学館

< 経世済民 >

縁（えにし）

本日は中斎塾秋季合同フォーラムによろこそお出でくださいました。又、よく足利の地にお出で下さいました。

参与もお二人参加して下さいました。大野参与には東京フォーラムで時々お話をして戴いております。そろそろ鳥の新型インフルエンザが話題になってくると思いますが、危ないと思ったら大野参与に連絡をして戴くと日本で一番新しいニュースが聞けて、且つ具体的なアドバイスを戴けると思います。菅野参与には度々季刊誌に寄稿して戴いております。来月 14 日に日本民俗経済学会で多胡碑の記念講演会がございます。これは菅野先生がずっと追いかけているテーマです。興味のある方はお出かけ下さい。

本日講話を戴いた高木先生は、猪瀬常任理事のご縁でお出で戴きました。高木先生の講演「三くだり半にみる離婚の礼儀」は実におもしろくて参考になりました。特に慰謝料について、「昔は金のある方が払う、今は悪い方が払う」というお話でしたが、確かに悪い方となると、どちらが悪いか決めるのは大変だと感じました。

色々な方の縁が繋がって、本日の秋季合同フォーラムが行われる運びとなりました。実行委員長でもある塚越北関東フォーラム代表幹事の挨拶も非常に楽しかった。定例の北関東フォーラムで挨拶をされる時も、いつも内容の濃い話を戴きます。そして本日の準備を進めて下さった北関東フォーラムの幹事の皆様にも感謝を申し上げます。

経世済民とは

本日のテーマは「経世済民」です。経世済民という言葉をご存知の方は？・・・半々ですね。

経世済民とは経済です。今使っている「経済」の元が経世済民です。「経国済民（国を経（おさ）め、民を済（すく）う）」とも言います。国を治めて苦しんでいる民を救う、これが経世済民です。こういう言葉を聞くと、耳の痛い政治家や高級官僚が沢山いるのではないのでしょうか。

Economy という言葉から「経済」という訳語を作ったのは福沢諭吉と言われています。

古代ギリシャ語で、「オイコノミクス」(共同体のあり方)というのが語源だそうです。福沢諭吉というと歴史上の人物という感じが致しますが、私ども中斎塾フォーラムの顧問の木内孝さんのお母様が福沢諭吉の孫娘です。福沢諭吉は女性を尊重し、女性にも教育を施して世の中で大いに働かねばいけないと公言していましたが、木内顧問のお母様曰く、家庭ではそういう態度ではなかったようで、やはり外面と内面は違うのだなと感じました。そういうことを聞くと、歴史上の人物も非常に親近感を感じます。先ほどの高木先生のお話でも、女性はしたたかで大変だということですから、亭主関白のつもりでも本当は相手の掌に乗せられて動かされているだけというのが実態のようです。女性とは怖いのだなと先ほど再認識を致しました。

話が逸れたついでにもう少し福沢諭吉の逸話をお話します。福沢諭吉が亡くなって埋葬された時に、その棺に地下水が流れてくるような場所に土葬されたものだから、棺ごとミイラになっていました。損傷もない良い状態で発見されたのです。それだけ良い状態で発見されたミイラは是非ともきちんと調べなければならぬと、後から色々な方が言われたようですが、その時は遺族や慶応関係の人たちの意向で即座に火葬されてしまい、学術的な価値は葬り去れました。

福沢諭吉は医師からあまり運動をしてはいけないと言われていたそうです。しかし剣術は別だと考えて、素振りを相当やっていたそうです。

歴史上の人物を調べる時には、その人の私的な部分、内面の部分まで調べると親近感が湧いてくるし、自分自身の参考にもなります。一皮向けると思っています。

経世済民の歴史

中国に「経世済俗」という言葉があります。これは東晋の『抱朴子』の内篇に載っています。又、隋代の王通『文中子』礼楽篇には「経世済民」という言葉が見られ、唐の『晋書』にも、元の『宋史』にもあります。中国ではこの「経世済民」を、もともとの意味で使っていたということが歴史的に出ています。

日本の場合も江戸時代に経世済民論が流行し、熊沢蕃山の『大学或問』、荻生徂徠やその弟子の太宰春台と、日本の中でも経世済民が受け継がれてきています。

今の日本に足りないもの

では、話しを経世済民に戻しましょう。

今の世の中で何が足りないものは何か……。まず、判断基準がない。例えばおなか为空いてご飯を食べようとレストランに行くと、色々なメニューが並んでいます。何を食べ

ればよいか考えた時に、自分の健康状態やお医者様からの指示、自分の嗜好・・・色々なことを考えて選ぶと思いますが、目の前にある、食べたいと思ったものを食べればよいのです。これが他のものにも全部当てはまります。

今の世の中、判断基準が非常におそろかにされています。人間が生きていく上での人生哲学、人間として生きるべき道、これらはどういうものか常に考えていくと、何か起きた時の判断基準がずっと頭の中に浮かんできます。ところがこの判断基準があまりにもなさ過ぎる。なぜでしょうか。テレビで菅さんや仙谷さんの顔が大写しになります。特に菅さんの顔を見ると、日本の総理大臣なのにどうしてこうも判断基準を持っていないのだろうかと思えます。その時その時で言うことがコロコロと変わって、態度も変わってしまう。これでは日本はもたないなと感じます。

それから今の日本に足りないものは、夢と希望です。子供たちからみても、この国は夢と希望がないと思います。

もう一つないものは、国家意識です。日本人としての意識、国家とはどういうものなのか、国としての意識があまりにもなさ過ぎます。今、日本という国は諸外国から狙われています。北朝鮮が軍事力で攻めてくるということも十分考えられることですし、ロシアは北海道を攻めて来るでしょう。中国は今、攻めてきている真っ最中です。と言っても昔のようにドンパチとやりあうのではなく、カモフラージュしながら一つ一つ段階を踏みながら攻めてきていますので、日本人は茹で蛙の状態で気がつかないまま、だんだん占領されてきています。国家意識があまりにもなさ過ぎるからだと思います。

ということで、今の日本にかけているものが判断基準・夢と希望・国家意識だと考えたならば、経世済民はどうしても必要だと思います。経世済民というのは、乱れた国をきちんと治め苦しんでいる民を救うということが根本ですから、経済というものが確かに必要があるだろうと考えています。

今、求められる経世済民 - 経世家の条件 -

経世済民をもととの意味で考えた場合、経世済民の条件を 5 つ考えました。経世済民を実行していく人たちの条件ということで。

1、世のため・人のためという使命感がある

今の政治家にはこれがありません。菅さんにしても鳩山さんにしても、皆、私利私欲のため、一日でも長く総理大臣をやりたいという本音が透けて見えます。経世済民を実行する人は、世のため・人のためという使命感を持たなければいけないと思います。

2、経済の仕組みが分かって、近未来の国家像をしっかりと持っている

民主党も自民党も近未来の国家ビジョンを掲示していません。これから日本という国は
どういう方向に進むべきか、国民はこういうことを考え、こう行動すべきで、そうすれば3
年後の日本はこういう国家になり、10年後にはこういう国家を目指したい・・・というビ
ジョンをどの政党も発表していないのではないかと感じます。現在の世界経済の仕組みが分
かり、日本の経済独特の仕組みが分かって、近未来の国家像が示せることが経世済民の条
件です。

3、「足るを知る」の思想を持ち、実行している

中斎塾フォーラムの基本的な理念は「足るを知る」です。「足るを知る」という考え方は、
年配の方は皆さんどなたでもお持ちです。若くなればなるほど、あまり持っていないと感
じます。がっつかない・金の亡者にならない・ほどほど・・・「足るを知る」という思想が
身につけている人は、相当な年配の方だと思います。やはり身近にいる年配の方を我々は
お手本にすべきです。「足るを知る」という考え方が身に付いてくると、拝金主義（お金が
すべてという、日本をそして世界を悪くした考え方）から脱却できる。そして人類は一皮
向けて、新しいステージに進んでいけると思います。

私ども中斎塾フォーラムでは、「昨日一日、嘘をつかなかったですか」という一つの質問
で全部網羅するようにして、日々過ごしています。「嘘をつかない」という質問が、「足る
を知る」という根本的な考え方に直結しています。じっくり考えていると、繋がっている
など実感できると思います。

4、国家意識を持っている

政治家や高級官僚の人たちが、もう一度、国家というものは何かを学び直す必要がある
と思います。子供たちが持っている教科書には、国家の要素として、国土・国民・政府と
あります。国土があり、国民がいて、その国を代表する政府があってはじめて独立した国
家であると認められるわけです。しかし日本の国家は困ったもので、国家意識が今の政府
になさ過ぎます。

自分の国民を拉致されたまま、解決できない。国民を守れないで何が政府かと感じます。
国民も守れない国家は、国家と言えるでしょうか。北方領土や尖閣諸島等々の領土を守れ
ない国家も国家といえるでしょうか。領土を他国から侵食されて、削られて平氣でいる国。
これはそのうち国土がなくなってしまう非常に危ない状況にあると感じます。政府に関し
てみれば、今回は弾みで政府が変わった。投票する選挙民の意識が、だんだん変わってき
ています。投票する人たちの考え方によって政府は変わるのだという考えが定着し、もっ
ともっと進んでいかなければならないと感じています。

5、社会全体に上昇気流が生まれているか

経世済民が表面化する時に必要なものは、滾り（たぎり）だと思います。情熱が滾る。

明治維新の時を考えると、滾りがありました。若者が情熱の趣くままに、身体中の血液が滾りに滾って行動に移るといふ、国全体がたぎりの坩堝に入ったと思います。渋沢栄一さんは『論語講義』の中で、明治維新の志士たちは、「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」といふ論語の一節を胸に抱いて、何度も唱えて死地に赴いた。義のために自分の命は顧みない。自分たちが理想とする社会の実現に近づくのであれば、即座に自分の命を捧げるといふことで進んでいったと述懐しています。孔子はこの言葉がそのように活用されるとは思っていなかったでしょうが、いずれにしても論語の中の一説に志士たちの情熱がたぎったわけです。明治維新のエネルギーを生み出す素に、論語がなったという感じがします。

今の時代も、明治時代のたぎりと同じような上昇気流が凄まじい勢いで起きてこないか、国は変わりません。政治家だけの首を挿げ替えても、自分は関係ないと考えていたのでは立ち上がらない。自分自身に痛みを感じた時に、初めて立ち上がり始めるのです。ですからこの国は、まだまだ落ちていないと思います。

だいいち、江戸時代の初めは日本全体の人口は 1300 万人でした。明治維新の時に 3300 万人です。270 年間で 2000 万人増えただけです。それが今は 1 億 2000 万人ですから、凄まじい増え方をしています。資源や環境、自然との調和から考えても、これから少子化がますます進み、鳥インフルエンザのような凄まじい伝染病が流行る、或いは大きな地震が起きて、日本人の相当数が死ぬと思います。

明治維新は黒船の来航で幕が切って落とされたようなものだと思いますが、ちょうどその頃は大地震が続けて起きています。それから外国の船がコレラを運んできて、江戸市民が 3 万人死んでいます。そう考えると、今の日本でも伝染病が流行るでしょうし、大地震も起きるでしょう。想像もつかないような死に方で、日本人は淘汰されると思います。人口が多すぎますから、もっと人口が激減しなければならないだろうと思います。ただ、ロシアみたいな死に方はしたくないですね。ソ連からロシアになった時に、ロシアでは混乱の極みで食べものが激減して、何千万もの人々が飢え死にをしました。日本もこれからそういう時代が来るであろうと思います。

これから日本では経世済民という言葉が重きをなしてくるでしょう。逆を言えば、経世済民の具体的な実行条件がいくつも出てくる時は、日本がどんどん落ちていく時だと思います。今、世界全体を眺めてみれば、アメリカは確実にもうお終いです。ドルの信用は地に落ちて、アメリカの威信は揺らいでいます。先進諸国は自分たちで意識して自国の通貨

価値を減らしていこうとしていますが、アメリカは先頭きって落ちています。かつてイギリスが覇権を握っていた時は、イギリスの人達は自分たちの国が落ちることなど考えてもいなかった。ところが現実にイギリスは大国の座から滑り落ちてしまった。アメリカも今、超大国の座から滑り落ちつつあります。坂道を転げ落ちています。すると次は、何処かが台頭してくると思います。中国ががむしゃらに無茶苦茶に台頭してきていますので、これは無視して通れません。そう考えると、なぜ日本は中国に援助をしているのかと思います。

世界全体を眺めてみると、アメリカが落ちて、中国が台頭してきた。そういう中で言えることは、資本主義はもう終わり、社会主義も終わりです。そうするとそれに変わるものが出てこなければおかしい。色々な国で色々な人が色々なことを言っていますが、私は先ほど申し上げた「足るを知る」という考え方、「知足主義」だと思っています。

ブータンの国王が「我が国の国民は世界で一番幸せである」という話しをしたということで、私はすぐにブータンに行ってみました。たしかに、かつては幸せだと信じていた。しかし今はどんどん幸せという概念が崩れてきていて、周りをうらやみ・妬む国に変わりつつあるという実感を持ちました。

世界全体がこれからもっと混乱の極みに向う中で、日本はいち早く抜け出して、一つの世界の中で生きていけるような循環型社会の仕組みを作り出すのではないかと考えています。

経世家 河井継之助

経世済民を実行した人たちには、どういう人がいるでしょうか。童門冬二という作家が書いたレポートで、江戸の経世家として山田方谷・河井継之助らの名前を挙げていました。ネットでご覧になれるので、見て戴ければと思います。山田方谷に関しては、『財政破綻を救う 山田方谷「理財論」』『陽明学のすすめ 山田方谷「擬対策」』という本を書いておりますので、今日は申しません。

一つの参考事例として、河井継之助に関して経世家と言われる所以を、先ほどの経世済民の5つの条件に当てはめて考えてみましょう。

1、世のため・人のためという使命感はあるか

河井継之助を見てみると、世のため・人のためという意識はないですね。その頃流行った尊皇攘夷などという気持ちもありません。ただひたすら長岡藩七万四千石のため、という意識が強烈にありました。しかしこれは狭い見方で見れば、世のため・人のためという使命感に直結していると思いますので、経世家の条件を満たしていると思います。

2、経済の仕組みが分かり、近未来の国家像を持っているか

これは痛いほど持っていると思いました。国家像については、ちょうどペリーが来た時に河井継之助は江戸にいたので、米百俵で有名な小林虎三郎と一緒に黒船を肌で感じるという千載一遇のチャンスをものにしています。近未来の国家像を見るというチャンスには恵まれて、独自のものの考え方を進めていたから、この点に関して経世家の条件を満たしています。

藩の経営・経済の仕組みについては、先生がいませんから、先生を探し回って、自分の師匠であった高野松陰から山田方谷を教わりました。高野松陰は江戸で佐藤一斎の塾で学んでいましたので、その時に山田方谷を知っていました。山田方谷という人物は、あの佐久間象山を押さえつける人物であり、財政改革を成し遂げ、領民に生き神様と崇めているということを聞き、親に無心をして50両を送ってもらい、山田方谷に弟子入りをします。

河井継之助は、かなり頑固で横柄な態度の人物だったようです。『塵壺』という日記を残していますが、その中で、父親に宛てて50両を無心する手紙に「安五郎と申す者あり・・・」と、最初は方谷を呼び捨てにしています。それが、備中松山藩に向う途中、だんだん備中松山藩が近づくにつれ様々な評判を聞いて、「山田先生」となり、方谷に会って弟子入りをし、別れる時には、生き神様のような存在になっていました。見送ってくれた先生に、河原に土下座をして別れを惜しんだと書いてあります。自分が認めた人間に対しては、極端なくらい礼を尽くしてゆく人物であったと感じますし、一生涯でただひとり、心の底から敬う人を見つけたのだと思います。

その山田先生が成し遂げた備中松山藩の財政改革・軍制改革・教育改革等ありとあらゆる改革のノウハウを目の当たりにして、全部自分のものに吸収して帰ってきたわけですから、河井継之助は瞬く間に長岡藩の改革を成し遂げることができました。又、それなりの素質を持っていた人でした。

3、「足るを知る」の思想を持ち、実行しているか

拝金主義から脱却し、お金を皆に平等に分けるという点で見えます。当時、長岡藩には600弱の武士がいました。その内訳は、二百石以上が54家、百石から二百石が135家、百石未満が400弱です。河井継之助は上位の百数十の人たちの給料を減らして、百石未満の人たちに配りました。具体的に申しますと、百石を一つの基準にして、二千石の人は五百石に減らし、六百石の人は二百石に、三百石の人は百七十石に、二百石は百五十石、百五十石は百三十石と減らし、逆に九十石の人は九十五石に、八十石の人は九十石に、五十石の人は八十石に、三十石の人は六十五石に増やしました。皆横並びにしてしまったわけです。これは改革などというものではありません。相当な強権を握ったから出来たのだらうと思いますし、したいと強烈に思ったから出来たのだと思います。

4、国家意識を持っているか

長岡藩七万四千石は禄高は少ないけれども、お殿様は常に老中でした。ペリー来航の時は老中首座が阿部正弘で、ナンバー 2（今で言う副総理と外務大臣と防衛庁長官を兼ねているような役職です）が長岡藩の牧野忠雅でした。この二人は 14 年間コンビを組んで国難に当たっていました。長岡藩イコール幕府ですから、倒幕などということは考えもしない環境下にありました。ですから国家意識というのは、強烈に持っていました。

5、社会全体に上昇氣流が生まれているか

長岡藩の中で河井継之助が上昇氣流に乗り出したのは非常に遅く、39 歳の時です。河井継之助は自分がやりたいことばかり言って、思い通りに進めていくような人間ですから、抜擢されるわけがなかった。それが 39 歳の後半で初めて、郡奉行に抜擢をされました。牧野忠雅というお殿様が、ペリー来航に際して提案書を出させたわけです。その中で河井継之助の提案書が見所があるということで役をつけて貰った。それに対して小林虎三郎の提案書は認められず、左遷されて、ずっと干されっぱなしでした。一つの提案書で、その人の人生が変わってしまった時代です。

郡奉行に抜擢されてから 5 年くらいのうちに、河井継之助は長岡藩の出世街道を駆け上って行きました。なぜかというと、世の中がどんどん変わり、国中が燃え上がって煮え滾って、長岡藩だけ知らん顔をしていられない状況下で、それなりの人材に見える者は河井継之助ただ一人だったために、上昇氣流で押し上げられてトップまで上り詰めてしまったわけです。

河井継之助が下手だったのは、人間関係でした。縁が悪いというのか、自分が出かけていった塾には有名な明治維新の志士たちがいましたが、人間関係が出来なかった。自分だけの世界に閉じこもって進めていきましたから、狭い世界の中では通用したけれども、ちょっと広がるとどうにもならない。今の時代でもそうですが、縁の作り方が下手だと、世界は広がらないと思います。

有名な小千谷会談と云われる慈眼寺での話し合いも、継之助の縁の悪さを物語っています。小千谷に攻めあがって来た官軍に恭順の意を示しつつ、西軍（官軍）と東軍（会津藩や奥羽の諸藩）の間を取り持って戦争を回避するべく、嘆願書を持って慈眼寺に行ったわけですが、事前の根回しが一切ありませんでした。その時の軍監が若造だったので、時間稼ぎをしているだけだろうと軽くあしらわれてしまったのです。この間、私は慈眼寺に行き、会談の間に座ってみて、継之助が食事をした料亭にも行ってきました。とても狭い所で、これだったら事前に調べれば見当がついただろうにと感じました。何という根回しをしない人なのだろうと思いました。天は二物を与えずと云いますが、河井継之助の周りに

目端の利く人がいたならば、会津の状況も変わっていたのではないかと感じました。

まとめ

ともあれ、乱れきった世を経め苦しんでいる民を濟うという本義を持つ経世済民こそ、今の日本で活かされるべき時です。そしてそれを実行していく人物が生まれなければならないし、生まれるように時代は動いていると感じます。ですからそういう芽を叩き潰さないで、なるべく伸ばしてやると良いと思います。日本の中からそれは生まれると思います。ただ、生まれるためにはもう少し日本が落ち込まないといけなんでしょうが、幸いかどうか分かりませんが、日本は確実に坂道を転げ落ちています。アメリカが坂道を転げ落ちるのと同じように、日本も転げ落ちています。どちらが先にどん底に着くのか、競争中だと思います。着いたところに、私も含めて皆さん死んでいるかといえば、そんなことはありません。皆、生きています。尚且つ、まだ元氣がある年齢だと思います。今ここにおられる方は、年がたっていても70歳そこそこですから、その方々がまだ元氣な間に、そういう時代に突入するということを申し上げて、是非、経世済民を身の周りで探して戴きたいと思いますし、自分自身も努力して自己を磨いていく。そういう動きが今、求められていると思います。

最後に申し上げます。今の時代にないのは判断基準、夢と希望、国家意識です。是非、中斎塾フォーラムとそこに繋がる皆様は、これをお持ち戴きたいと思います。ご自分は持っているだろうか、今晚寝る時に思い起こして戴くと有難いと存じます。

以上で私の講話は終了です。大変有難うございました。